

第5回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会 議事録

[日時] 平成31年1月24日(木) 14:00～15:30

[場所] 富里市役所本庁舎3階 第3会議室

■出席者

- 石橋副市長、門澤都市建設部長
- (座長) 富里市商工会会長：経済 寒郡 茂樹
- (委員) 千葉県県土整備部都市整備局都市計画課長：都市計画 代理：横須賀 努
- 千葉大学法政経学部教授：協働 関谷 昇
- 富里第一小学校区まちづくり協議会会長：防災 川島 年雄
- 千葉県印旛農業事務所改良普及課長：経済 市原 重信
- 成田国際空港株式会社
- 共生・用地部門地域共生部長 関口 順一
- 株式会社ちばぎん総合研究所調査部長：経済 関 寛之
- 富里市学校専門指導員：教育 渡邊 薫
- 富里市民生委員児童委員協議会会長：福祉 宮川 朱実
- 富里市シルバークラブ連合会：福祉 栗飯原有禧
- 成田赤十字病院副院長兼事務部長：医療 代理：酒井 康博
- 富里市廃棄物減量等推進審議会会長 大道 正義
- (事務局) 吉池都市計画課長、小川主幹、戸村主査、矢口副主査
- 大日本コンサルタント：古谷
- (傍聴人) 0名

■欠席者

- 千葉工業大学副学長：都市計画 鎌田 元弘
- 千葉交通株式会社専務取締役：交通 鵜澤 尚夫

■配布資料

- ・第5回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会 次第
- ・富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会委員名簿 第5回有識者懇談会
- ・次期都市計画マスタープラン(案)の提言書
- ・富里市都市計画マスタープラン(案)【本編】 ……資料1
- ・富里市都市計画マスタープラン案の概要版 ……資料2
- ・(素案)からの主な校正事項 ……資料3

1 開会

2 富里市副市長（策定委員会委員長）あいさつ

3 座長あいさつ

4 議題

・次期都市計画マスタープラン（案）の提言について

【資料3】説明

【提言書】説明

横須賀委員：

- ・校正後のアンダーラインの箇所が、「修正した方が良い」とこちらから提言させて頂いた箇所になります。そちらについてご説明させていただきます。

1つ目として「人口減少や少子高齢化を踏まえたまちづくり」を行う上で、それぞれの地域特性にあったゾーニングを行うといった修正を提案させて頂いております。

2つ目として「広域的な道路ネットワークの強化と地域内交通の利便性をはかること」についてですが、当初は「道路整備の推進」となっておりましたが、「道路整備の実現」に修正することを提案させて頂きました。

関谷委員：

- ・人口の部分、主に定住人口・交流人口については、これから人口戦略をどのように進めていくのが都市計画にとっても重要であります。今後、人口を維持する以上に増加させるのは難しくなってきます。元々富里市に住んでいたが市外に出て行かれた方や周辺自治体との積極的な交流が「協働」していくために必要になってくるかと思えます。
- ・協働について明記して頂けたことは非常に良かったかと思えます。一方で、都市計画における協働は非常に難しく、分野や業界、活動団体、世代によって分断してしまうことが挙げられます。そういった意味で色々な壁を越えていくことが、協働を考える上で非常に大切だと思います。様々な団体同士が横断的に協力していく必要がある中で、都市計画は基盤になりうると思います。また、民間活力の積極的な導入に向けては、実施体制についてももう少し踏み込んでも良かったかと思えます。

寒郡座長：

- ・一貫して言ってきましたが、人口減少については世の中の趨勢ということである程度仕方のないことだと思います。しかし、富里市はまだ人口は減少していないという傾向にあります。このエリアを一体として空港圏内として捉えた場合、空港内で働く人口だけで3万人増加するというデータがありますが、周辺まで含めるとどの程度増加

するのかという試算は出ておりません。これらのことを踏まえますと、人口の減少も試算より緩やかになるのではないかと思います。一元的に社人研のデータが正しいように捉えていますが、現時点でこのデータにあてはまっていないと感じており、第三滑走路が整備されていく中で、これからまだまだチャンスがあるということをご理解いただければと思います。マスタープランの根本にかかわる部分でもあることから、一般的な人口スキームだけでなく、第三滑走路ができた後の可能性もあることを考えて欲しいと思います。

酒井委員：

- ・マスタープランの本編のページ番号の振り方ですが、左右のページで偶数・奇数が入れ替わる所があるので、統一した方が良いのではないのでしょうか。

事務局：

- ・A3版の図面等がございますので、そのようなずれが生じておりますが、ページ番号の振り方については検討させていただきます。

粟飯原委員：

- ・提言書とP25～27の「本市が抱える課題」、P91のA3版にまとめがありますが、これらは同じではないのでしょうか。個人の見解としては、非常にわかりやすく、市民の皆様にもよく伝わるのではないかと思います。
- ・また、13の村が合併した1889年から今年で130周年ということで、「13」という数字が非常に印象に残っております。
- ・ゾーニングの図面では、「多極ネットワークのコンパクトシティ」とありますが、市民の皆様が「コンパクトシティ」をどのように捉えるだろうかという所です。そのあたりをご説明頂ければと思います。巻末の「用語の説明」については、非常に素晴らしいと思います。
- ・また、新しい道路の整備、既存道路の拡幅工事を行うということで、地権者の方がいらっしゃると思います。しかし、計画ができていながらも関わらず、地権者の同意が得られずなかなか進まないということもあり、理解を得られるための準備をしっかりと頂きたいと思います。マスタープランについても、この計画が実行できるのかという不安も感じております。

事務局：

- ・コンパクトシティについては、今後の人口減少に伴い、税収が減ることが考えられる中で、公共施設の集約・コスト削減をしながら自動車に頼らず歩いて暮らせるまちづくりを目指す、今まで拡げすぎた市街地をもう少し縮小しましょうという制度だと理解しております。富里市の中でそれが適するのcaというところもありますが、都市計画マスタープランの中では、集落のイメージ像として歩いて八百屋さんや雑貨屋さん

など買い物に行ける、そして地域のコミュニティが確保できるようなあり方を期待しております。最近では、自動車に依存し、郊外に店舗ができ、歩いて生活ができる環境ではなくなってきていることで、地域に密着した店舗がシャッターを閉めています。また、自動車の運転ができないような人はどう生活したらいいのかといった状況になってくるかと思えます。それに伴い、生活が不便な地域だということで、人が離れていってしまうことを食い止めていこうということ、このマスタープランではコンパクトシティを意識した目標を記載しているということです。

川島委員：

- ・防災対策の強化について、情報発信や防災訓練などがありますが、災害対策については早期に行うものかと思えます。富里市では「富里市地域防災計画」が策定中であるかと思えます。その中で、地域の住民が担うこととして自主防災組織が記述されています。しかし、協働のまちづくりについて条例を定めて8年が経過した現在も協働に対する市民理解が進んでいないと思えます。様々な活動を行う中で地域団体同士の連携が必要ではありますが、地域住民の活動には限界があるため、行政側の連携をもっと密にとって頂きたいと思えます。
- ・旧岩崎家末廣別邸について、市が寄付を受けて始めてからそれなりの期間が経過しておりますが、まちづくり協議会で見学をさせて頂きました。一般公開するまでには、相当期間を要することを伺いました。広域文化観光協議会を設立している中で、交流・観光拠点についての方針を明らかにしてもらいたいと思えます。得られたものを活用しないことには、まちの活性化にはつながらないと思えます。

粟飯原委員：

- ・私も拝見させて頂きましたが、観光地というイメージではなく、旧家が立っただけで観光地として人が集まるようには思えません。興味を持ってもらえるような取り組みとして、近代的な農業の先駆けとして耕運機を導入したことや鶏の放し飼いをし卵の販売をしたという経緯がわかるようなモニュメントの設置や輸入した耕運機などの写真を展示するなどといったことが考えられます。開墾していった過程を納得してもらえるような取り組みを行わないと、人集めということは難しいと思えます。さらに、周辺の乗馬クラブとの連携し、子供からお年寄りまで楽しめる企画を行うことが必要だと感じます。

関口委員：

- ・提言書の項目2番目「広域的な道路ネットワークの強化と地域内交通の利便性をはかること」の部分ですが、広域的なネットワークの強化について、空港と富里市に焦点が当たっているかと思えますが、例えば「空港はじめ、近隣地域と富里市との利便性の向上」いったような広がりを持たせた表現の方が良いかと思えます。ただ、実現可能性の観点からそこまでは記載できないのかと感じておりますが、空港という視点だ

けでなく他の視点も入れてみてはどうかと思います。

事務局：

- ・空港として言い切っている部分があるので、近隣地域というキーワードを書き加えるということを考えております。

大道委員：

- ・協働の取り組みについて、提言させていただきます。先ほど「協働」の意味について皆様が本当にわかっているのかというお話がありましたが、日吉台では商店街が主催して「市」を開催していますが、その時に若い世代の参加がすごく多いように見えます。協働の取り組みとしては、世代間での情報交換・ネットワークの構築をするなど具体的な取り組みを広報で行政から周知してほしいと思います。

5 その他

- ・事務局より今後の公表までの予定について説明

6 閉会